

第 2 回 門真市幼児教育振興検討委員会 議事録

『門真市における今後の幼児教育のあり方』について、門真市幼児教育振興検討委員会に審議をいただいております。第 2 回の委員会での議事の要点は、次のとおりです。

開催日時：平成 19 年 11 月 1 日（木）午後 3 時～ 5 時 15 分

会場：門真市民プラザ 教育センター 4 F 会議室

出席委員数：12 名 / 12 名

議事

1. 開催要件の確認、第 1 回委員会議事録配布

事務局：半数以上の出席により、会議が成立したことを確認。

第 1 回委員会議事録を配布し、各委員に目を通していただく。（5 分間）

2. 会議の公開・非公開決定

議長：本日、傍聴人はおられますか。

事務局：傍聴者はおられません。

議長：では、事務局から資料の説明をお願いします。

3. 資料説明

資料 1 『過去 10 年間の門真市の人口推移』

資料 2 『過去 3 年間の門真市に居住する幼児の就園状況』

資料 3 『過去 5 年間の門真市立幼稚園における在籍幼児数』

資料 4 『門真市内の幼稚園および保育所分布図』

事務局：資料 1 につきましては、過去 10 年間の本市における人口の推移でございますが、平成 10 年の人口は 13 万 9 8 6 1 人となっております。その後、今年度まで徐々に減り続けて今年の 5 月 1 日現在で 13 万 3 7 9 6 人となっております。10 年間の減少率は 4.3% で、毎年 600 人強減少していることとなります。0 歳児から 5 歳児の乳幼児となりますと、この 10 年間で 2069 人の減少で、減少率は 23.1%、毎年 200 人強減少していることとなります。これは、全人口の減少率の約 6 倍でございます、本市においても急激な少子化が進んでいることがわかります。

資料 2 は、本市に住んでいる 3 歳児から 5 歳児の就園状況を過去 3 年間にわたってまとめたものです。平成 17 年度では、市内私立幼稚園に通う幼児は 1597 人で、3 歳児から 5 歳児の総数の 40.6%、平成 18 年度が 1433 人で 38%、今年度が 1382 人で 38.6% です。他市の私立幼稚園に通う幼児数は、平成 17 年度で 190 人、平成 18 年度で 176 人、今年度が 170 人です。市内および市外の私立幼稚園に通う幼児数は、平成 17 年度が 1787 人で全幼児数の 45.4%、平成 18 年度は 1609 人で 42.6%、今年度が 1552 人で 43.4% となっております。また、門真市外から門真市の私立幼稚園に通う幼児数を加算して本市の私立幼稚園の定員充足率をみますと、平成 17 年度が 76.3%、平成 18 年度が 72.6%、今年度が 69% となっております。そして、本

市の公私立保育所に通う3歳児から5歳児の幼児数についてみますと、平成17年度が1248人で全幼児数の31.7%、平成18年度が1225人で32.5%、今年度が1175人で32.8%と比率はわずかながら増えております。

資料3につきましては、過去5年間の本市の4つの公立幼稚園の幼児数と定員充足率を示したものです。本市の総定員数は455人です。それに対して平成15年度の在籍幼児数は362人で充足率79.6%、16年度が356人で78.2%、17年度が305人で67%、18年度が275人で60.4%、今年度が285人で62.6%となっております。この5年間で定員充足率は17%下がっており、毎年4.3%平均で減少しているということになり、これは私立幼稚園の減少率2.4%の1.8倍となっております、減少率は私立幼稚園よりも深刻な状況であると言えます。資料4は、本市の幼稚園と保育所の分布図であります。現在本市には、公立幼稚園は4園、私立幼稚園は8園、公立保育所は7園、私立保育所は9園でございます。また、市の南西部は人家が少なく、保育所も幼稚園もありません。

以上、資料1から資料4まで説明させていただきましたが、質問等がありましたら、お願いします。

4. 質疑応答

議長：資料を見ますと東小学校区のみ幼稚園も保育所もありませんね。小学校区は、いくつありますか。

事務局：15校区でございます。

議長：公立幼稚園と私立幼稚園を足すと12ですが、これは小学校区15を下回っており、また東小学校区だけ就学前の機関がここだけ0であるということですね。保育所が16だから、小学校区15校に対して各校区に1つの保育所があり、計算上では対応していることになりますね。中学校区はいくつありますか。

事務局：7校区でございます。

議長：1つの中学校区に、平均すれば2つの小学校ということになりますね。大阪府の場合、中学校区を軸にして『すこやかネット』とあって、幼・小・中学校が1つにまとまって地域教育協議会を立ち上げています。このことは今後、議論していくことになるかもしれませんが、そういう意味も考慮に入れて、7つの中学校区があるということです。

副議長：この分布地図をみますと保育所が16ということですが、認可外も含まれているのでしょうか。

事務局：認可の保育所は、9園でございます。

議長：それ以外の保育所の呼び方も含めて、どうなっているのでしょうか。

事務局：認可外の保育所について、市が補助金を出しているは11カ所です。その中には家庭保育施設といいまして簡易保育施設よりも規模の小さなものが含まれています。つまり認可外の保育所については8園、家庭保育施設が3園、私立の認可保育所は9園です。

議長：確認ですが、認可外のところには補助が出ているのでしょうか。

事務局：市の単費で補助を出しています。

議長：認可外の施設で事故が起きた場合、市の責任はどういうことになるのでしょうか。

事務局：定員6名以上の幼児を預かっている認可外の保育施設は、大阪府の届出の義務があります。府の指導課の方から1年に1回、施設に検査・監査が入っています。そのときには市の職員も同行した上で、指導にもとづいて改善されているかどうか精査しています。そこでもし事故があれば、市もそれなりの責任があることになるかと思えます。

委員：小学校の統廃合はありますか。

事務局：現在はございませんが、中学校区においては、計画はあります。

議長：資料というのは数字だけみても見えてこない部分もあり、議論の進展に伴って具体的に追求していくことが必要になってくるかもしれません。私立幼稚園については一つ一つの幼児数が出ていて、私立幼稚園全体としては定員の69%の充足率で私立自身のしんどさも深刻化してきている。それに対して公立幼稚園の定員充足率は62%で、私立に比べると極端に低いというわけではないとも言えると思えます。

5. 門真市立幼稚園の現状と課題についての報告（北巢本幼稚園 南幼稚園）

議長：前回お願いしていました門真市立の幼稚園の現状と課題について二つの園の報告をお願いします。

委員：北巢本幼稚園の取り組みについて、概要を報告します。

（1）北巢本幼稚園の概要

- ・ほとんどの幼児が四宮・北巢本・東小学校区から通園。
- ・平成2年創立。現在の幼児数は41名（年少組と年長組の2学）
- ・特徴として、発達障害を持つ幼児の在園率が高いことがあげられる。

（2）北巢本幼稚園の教育目標

「よく遊べる子どもを育てる」・・・幼児期から青年期へと続く子どもの発達を見通し、子どもの豊かな心や生きる力を育成することを目標にしています。

（3）近年の子ども像から

- ・人懐っこく、何にでも興味を持ち、好奇心旺盛。
- ・明るく元気で、優しい気持ちを持った子どもが多い。
- ・幼児の多くがゲーム機や視聴覚機器での一人遊びが見られ、また幼児の自宅周辺は自然環境が豊かであるとは言えず、自然と触れ合う機会が少ない。

（4）本年度の重点目標から

- ・環境を重視した幼児教育を行う。
- ・自然環境との触れ合いを通して豊かな心を育む。
- ・幼稚園と家庭・地域との交流や連携を密にして、幼児の教育を行なう。

（5）特色ある取り組み

自然環境を重視した保育を通して、命の大切さや食について考える

ことのできる豊かな心をもった子どもの育成をめざしています。そのため園庭の一部に畑を作って、栽培・収穫など季節を感じながら自然にふれる取り組みを進めています。

この取り組みによって、親子で自然物（栽培物）に対して、思いを共感（感動）できる。保護者や保育者が、幼児の思いを聞く機会になる。生命や食べ物に関心を持つなどの成果が見られるようになりました。

（６）子育て支援について

園庭開放

- ・降園後・火曜日は地域の未就園児も参加

おしゃべり広場

- ・客員の先生による相談や話

子育て相談

- ・個別相談

地域との交流

- ・小・中学校、障害者施設、老人会等との交流

（７）今後の課題

- ・幼児の生活は、園内だけで終わるわけではなく、家庭や地域での生活に連続しています。そうした生活の連続性を保障するためには、園としていっそう家庭や地域との連携を図らなければならないと考えています。家庭との連携のあり方として、現在の方法は果たして望ましいといえるのか、このままでいいのか等の検証、また地域の子育て支援センターとしての役割も考えていく必要があると思っています。さらに卒園した子どもとその学校との連携をどう作っていくのかも課題です。

委員：南幼稚園の取り組みについて、概要を報告します。

「人々の温かさにつつまれた南幼稚園」

（１）南幼稚園の概要

- ・門真市南部の門真団地の中に位置。昭和46年創立。
- ・現在、4歳児36名（2クラス）と5歳児42名（2クラス）9小学校区から通園。めぐまれた自然環境。

（２）南幼稚園の教育目標

- ～豊かな人間性、たくましく生きる子どもを育てる～
- ・健康でたくましい子ども
- ・自ら考えて行動する子ども
- ・心の豊かな子ども

（３）子ども像

- ・活発で室内遊びより戸外遊びを好み、元気がある。
- ・人なつっこく、大人と遊ぶことも好きである。
- ・生活や遊びに必要な言葉がなかなか使えず、感情のまま行動しがちな子どもも多い。

（４）重点目標より

- ・一人ひとりの子どもが自己の力を発揮し、仲間と共に創造的な活

動ができるよう、遊びを中心とした楽しい園生活を進める。

- ・ 保育所、学校、家庭、地域との協働による総合的な取り組みの充実を図る。（地域の子育て支援センターとしての園づくり）

（５）特色ある取り組み

豊かな心を育むために、本園では人的環境の充実を基盤として保育内容を進めています。地域の教育力の低下が指摘され、人間関係が希薄になっている今日、地域のさまざまな方と交流することは、園児にとっては人間関係を学ぶ上でとても大切なことだと思っています。また、年長児と年少児との異年齢交流は、子どもどうしのつながりも深めています。（表を使って説明）

門真団地の自治会や老人会との交流

保育所、小学校、中学校、高等学校との連携

未就園児との交流

6. 公立幼稚園からの報告についての質疑応答

議長：2つの報告をいただきまして、ありがとうございます。北巢本幼稚園の報告は、1つは園の中の活動として飼育・栽培体験を大切にした教育実践、一方では、子育て支援ということで園と家庭とのつながり、親と親のつながり、卒園後のつながり、そういう活動のなかで子どもの育ちをどう保障していくか、その取り組みの報告でした。南幼稚園の報告は、日常の教育に加えて、人とのかかわりを大切にした運営、しっかりとした地域連携の取り組み、そういう報告であったと思います。今の2つの報告を通して、どうぞご自由にご意見・ご質問をお願いします。

議長：北巢本幼稚園の資料について、説明していただけますか。

委員：資料1は、在園児に占める兄弟数で2人・3人兄弟が多いです。

資料2は、市内幼児数と本園幼児数の在籍数を比較した表です。

資料3は、障害児数の割合です。平成16年度から、20%を超えております。

資料4は、園で栽培している野菜や果実の種類です。（写真を回覧）栽培活動については、障害児も含め、園児だれでもかかわれる活動ということで始めた経過もあります。

議長：南幼稚園の障害児の受け入れ状況は、どうなっていますか。

委員：平成17年度が11人で約14%、平成18年度が10人で13%、平成19年度が16人で約20%です。

議長：私立幼稚園全体として、障害児をどれだけ受け入れてもらっているのか、データがほしいですね。今年から特別支援教育により障害のある子どもたちの受け入れがなされ、就学前から障害児とともに育つ教育をどう保障していくのかが問われてきます。この問題は、議論していかなければならない一つの柱であります。

委員：障害児の認定については、専門の先生・機関で検査を受けてもらっていますが、ボーダーラインの子どもがたいへん多く、検査の結果認定されないとか、また認定されるまで期間が長いという問題があります。ボーダーラインの子どもが年々増えてきているように思えます。私立幼稚園には補助

は多少ありますが、認定されないと補助が出ませんし、財政的な問題もあります。一方で就園までの家庭教育も大いに影響しているお子さんも多いです。また、親自身子どもとかかわりができないなど、そういうところからくる子どもの育ちも大きく非常に複雑です。そのような子も障害のある子どもとして、数えるのでしょうか。

議長：医療機関で比較的短期間に認定できる場合はいいが、現実にはADHD、LD、アスペルガーなどの子どもがいて、なかなか障害の認知は手続き上難しい面もあります。教育委員会として、障害の認知問題については答えられるよう準備しておく必要があるだろうと思います。

委員：それから、園から保護者の方に検査を受けるように言うことは、非常に難しいです。

議長：来年就学する5歳児で障害をもっている幼児については、教育委員会の中で受け入れ体制を整えるため、その時点でそれぞれの幼稚園に訪問して観察するなどを行っていると思いますが、3・4歳児の対応については今一つははっきりしていませんね。

委員：私立の状況ですが、門真市からまったく補助を受けていませんし、ご存知ないと思います。小学校に上がる時は、各学校から問い合わせはありますが。

委員：障害児と認定されていれば府に報告していますが、そうでない場合、報告はしていません。

議長：私立と公立がこの門真市で就学前の育ちという点で、行政の枠組みが異なることがいろいろな意味で連携を取りにくくしています。昨年12月、文科省の当該市における就学前教育について、教育委員会は内容を把握し指導しなさいという通達がきていると思いますので確認しておいてください。また、そのことについてどういう取り組みをしていくのかという問題があります。

委員：障害児の受け入れについて、幼稚園だけでなく保育所の状況も知りたいです。また、加配や困難家庭の問題もふれていただけたらと思います。

議長：北巢本幼稚園が今、子育て支援活動を継続して研究を進めているようですが、もう少し詳しく報告していただけたら良かったと思います。例えば実態として保護者の子育て相談が年間どれくらいあるのか等です。

委員：私立なのですが、府から補助があり、紹介もあって臨床心理士さんに月1回来ていただいております。もう5年になります。年々増えておりました、今はパンク状態です。

議長：北巢本幼稚園の報告にある「客員」というのはどういう方ですか。

委員：門真市の教育委員の先生です。就学前のお母さんたちは、とても不安なのです。子育て相談も専門的な内容の場合、同行して園医さんや保健所の先生にお願いすることもあります。

議長：今の報告のなかで「子育て支援」と「地域連携」の中身が重なっているところがありますね。地域連携していくことが子育て支援にもつながっていくわけですから、子育て支援と地域連携の活動を整理していく必要があります。また、今後子育て相談の内容についても、どこかでまとめ、内容がどのように推移してきているのかも調査・整理していく必要があると思います。

ます。

議長：南幼稚園の「うさぎクラブ」について、2・3歳児を対象としているようですが教えていただけますか。

委員：保護者に年間登録していただいて、1年間を通して「親子で遊ぶ」ことをねらいとしています。12～13名の在園児の保護者にボランティアとして手伝ってもらっています。登録されている数は、親子で40組程あり、たいへん人気があります。

委員：北巣本幼稚園でも園庭開放で未就園児に向けて、七夕祭りなど保護者に案内を出しておりまして多数参加されております。

議長：園庭開放については、降園後の場合と午前中の場合を区別して整理された方がいいと思います。保育所の場合はどうですか。

委員：保育所では、幼児が活動する時間帯で、午前中に在園児といっしょに園庭で遊んでもらっています。

委員：公立幼稚園4園の子育て支援の様子をどのようなことを年間どのくらい行っているのか、表にまとめて整理していただくとわかりやすいのですが。

議長：子育て支援をどこからどういう活動を想定しているのか、何でもかんでも子育て支援という形で考えてはいけない。性質が違う部分は、区分していく必要があると思います。今度の保育所保育指針・幼稚園教育要領は、はっきりと「子育て支援をしなければならない」ということが項目として出てきます。

委員：元来、私たちは子どもを預かって、子どもを成長させることが本来の仕事なのですが、子育て支援ばかりに目をやっていると本末転倒ということになるのではないのでしょうか。子育て支援の定義とは、何なのか疑問に思っております。

議長：次の幼稚園教育要領では、期待文言ではなくて「・・・ねばならない」という形での保・幼の役割・仕事として明記されてきます。行政的な言い方をすると「きちんとやっていますか」という会計検査の対象にもなってきます。

委員：そうすると肝心の保育をとびこえて子育て支援の方がメインになってくることにもなりますね。

議長：それに振り回されるという状況にもなってきたかねないかもしれません。ただ園児の育ち自体が家庭での育ちとものすごく深くかかわっていて、園で子どもに一生懸命に関わっても、家庭でなされないと元も子もないわけです。

委員：だから教師の質が求められるのです。まず保育をしっかりできて、親と幼稚園の信頼関係を作らないといけないと思います。家庭の子育て支援まではやりにくいというのが本音です。

議長：親とのコミュニケーションを密にして、信頼関係を作りながら、一方でクラスの一人ひとりの育ち・発達状況に即しなさいということですから。

委員：しかし、まずしっかりと保育をしなければ、親からの信頼は得られませんので。

委員：漠然と「子育て支援」と言われても、親は何でも支援してもらえんと思っ
ていません。何を相談してもいいと思っ
てしまいます。そして、もっと

もっとそれ以上のことを求めるかもしれません。私はそこが心配です。

副議長：10代の親は、子育てに不安があり、親としての自覚もまだまだで、親も一緒に育っていきましょうということ、そこを支援していく必要があります。

委員：保護者が支援の意味をわかれば、安心できるのですが。

副議長：何でも相談してもいいのですが、全てを誰かがやってくれるのではなくて最後はあなたがするのです、ということを引きちんとわかってもらう、そこが子育て支援だと思います。

委員：本当に親も子も育つための子育て支援でなければと思います。

議長：親の子育て能力を支援するのであって、親の子育ての代わりをするのではありません。そういう意味では、北巢本幼稚園の保育として自然に出会うことが子どもの育ちを支え、一方で親どうしのコミュニケーションの場をも作っていくことで取り組まれています。南幼稚園の報告の中で、老人会との交流が平成13～15年度までは年1回でしたが、平成16～17年度になると一挙に回数が増えて、平成18年度には定例化しています。これは着実に地域関係ができていくということだと思います。そのためには一方的な関係ではなくて、相互メリットで考えていかななくてはなりません。また園児にとっては、定例化することによって、子どもの中で目標設定したり、継続性からくる期待というものを大切にしたりすることが子どもの育ちにつながっていくわけです。そういう意味もこの報告でされています。

委員：民間保育園でも、子育て支援をしています。私どもの保育園でもコアラールームという名前で地域の方を招いて園庭開放をしております。月1回のイベントや大きな年間行事にも参加してもらっています。卒園児対象の学童保育や育児相談も行っています。一時預かり保育も実施してまして年間2000件ほどあります。

委員：公立の幼稚園の特徴などを聞いていて、その意義や取り組みの意図がよくわかりました。けれども、公立の幼稚園の人数が少ないようです。私の子どもは公立幼稚園に通っていましたが、小学校で多くの子どもたちと接してひじょうに戸惑っています。ですから、幼稚園や保育園で多くの仲間や異年齢の子どもたちと遊ぶことが成長の過程で大事だと思っています。そういう意味で公立の幼稚園の定員割れは問題だと思います。今後の会議でみなさんといっしょに考えていきたいと思っています。

議長：今日の議論で「障害児の受け入れの問題」と「子育て支援の問題」をどう整理していくのかという課題が提起されたと思います。また、幼・保の交流・連携も議論していかなければなりません。次回は、私立の幼稚園は『大阪ひがし幼稚園』の足立園長さんの方で、保育園は『上野口保育園』の田中園長さんの方で、ご報告をよろしく願います。本日はご協力いただきまして、ありがとうございました。

事務局：次回は、12月6日(木)午後3時より、教育委員会3階の第1会議室で行います。ご参加の程、よろしく願います。本日は、ありがとうございました。

以上で第2回検討委員会終了